

愛道

あいどう

共に生き 共に集う 光を求めて

第 121 号

社会福祉法人 足羽福祉多

トピックス

思いを活動に

[取組レポート] 足羽学園・グループホームひだまり・愛全園



愛全園

旅行の秋



夏まつり、カラオケ大会の景品
『温泉券』を獲得！
ゆり・ききょうユニットの皆さんが
2班にわかれて芦原温泉を
楽しむことができました。



あすわ就労支援センター



足羽更生園



足羽学園

秋です。
好きな本を
広げてみたら...



芸術・読書の秋



足羽利生苑

おいしいから
全部
いただきますよ。



スポーツの秋



子ども発達支援センター
フレンズあすわ

天高く、
とび箱も高く！



食欲の秋



足羽東こども園

目次 もくじ

- 2 それぞれの秋
- 4 自分で作る飯はやっぱりうまい 足羽学園
- 6 こころのキャッチボール
～ 想いをつなぐ～ グループホームひだまり
- 8 わたし、歩けてるぞ～
いつまでも可能性をもって！ 愛全園
- 10 思いを活動に ～ 共生への道 一歩ずつ～
- 12 啓明児童クラブ／感謝状授与
- 13 サービス実践報告会／ネパール募金
- 14 愛のささえ



「表紙について」

今年、足羽学園に入所された松本翔さん。担当になった職員と日々かかわりを通して、楽しく学園生活を送っています。

2人とも笑顔が素敵ですね。

(足羽学園 中村)



自分で作る飯は やっぱりうまい

私たちもですが、利用者の方にとって「食」とは、楽しみの一つです。
利用者の方から「自分で食事を作りたい」「将来、一人暮らしをしたい」という声を受け、始めた自立生活訓練についてご紹介します。
そして、利用者の方はどのように変わったのでしょうか？

自立生活訓練って 何？

一人暮らしをするために身の回りのことができるように練習することをいいます。その中には、掃除・炊事・洗濯などさまざまなことがあります。今回は最も利用者の方の関心の強かった「食」について取り組み始めました。

今回取り上げるのは、現在高等部3年生の片岡大知さんです。片岡さんは好き嫌いが多く、食事を残すことがとても多いです。特に混ぜご飯が苦手です。ふだんは食事に混ぜご飯が出ると具と白ご飯を分けて提供しているほどです。



取り組みについて

足羽学園では「温かいご飯が食べたい」と利用者の方の意見があがりました。そこで、夕食のご飯を配膳当番の利用者の方に準備していただきました。計量の仕方・ご飯を入れる量など、利用者の方自身が工夫し少しずつできるようになりました。

利用者の方から「おかずも作りたい」と声が上ががり、副食も自分たちで作ることを考えました。始めは、下準備済みの物をあえる・盛り付けることを行いました。しかし、利用者の方から「簡単すぎた」などの声を受け、取り組み内容をあえもの・盛り付けに加えて味噌汁作り・炊事を実施しました。



片岡さんが初めて自立生活訓練に参加したときは、ただ見ているだけで言われたことをするだけででした。材料を混ぜるときに激しくかき混ぜすぎて、材料が器からこぼれたり、菜箸を上手に使うことができず、具材を分けるときは、菜箸を使わずに具材が入った器をひっくり返して、器から具材を出していました。

回数を重ねていくことでだんだんと菜箸を使い、具材を少しずつ入れることができました。また、食器は水洗いのみでしたが、声かけをしていくうちに、スポンジに洗剤を付けて洗えるようにもなりました。



苦手な混ぜご飯を食べています。



菜箸を使い、上手に入れています。

見えてきた変化

始めたときは、自発的に行動をすることがありませんでした。回数を重ねていくうちに自ら材料が入った器を手に取り、作りたいようにしている様子が見られるようになりました。

一番の変化は、ふだん野菜や混ぜご飯を食べない片岡さんが、自分で作ったときは野菜、混ぜご飯を完食したことでした。ふだんの片岡さんの食事の様子を見ている私たちでも、ほとんど見られない光景でした。自分で作ったことにより、片岡さん自身何かを感じることがあったのかもしれない。



食器を丁寧に洗っています。



おいしく全部、食べました。



自立生活訓練
担当 吉村 幸起

自立生活訓練に取り組んだことによって、職員がふだんの生活の様子から見るができない一面などを発見する機会になりました。また、利用者の方からも喜びの声を聞くことができ、少しでも自信につながる経験の場になったと思います。

今後、利用者の方のふだんの様子を見て「できないだろう」と決めつけるのではなく、可能性を引き出す工夫も必要であり、それが私たち支援者の役目であることを改めて感じることができました。

こころのキャッチボール ～想いをつなぐ～



あすわ地域生活支援センターには、障がいのある方のグループホームが12カ所あります。各グループホームに世話人と呼ばれるパート職員が配置され、全体では34名の世話人がいます。業務内容としては、利用者の方の身の回りの支援や食事の準備などが主な仕事です。

今回は、グループホームひだまりの世話人の櫻川美智枝さんに仕事を始めたきっかけや、やりがいなどをインタビューしました。仕事に対する思いをご紹介します。

グループホーム ひだまりとは？

平成26年6月に女性のグループホームとして開所し、現在2ユニットの6名と2名の合計8名の利用者の方が生活しています。

利用者の方は概ね身の回りのことができる方がほとんどで、ふだんはそれぞれの職場に公共交通機関を利用したり、送迎バスや徒歩などで通勤したりしています。そして休日は、映画や買い物などに出かけたりして過ごされています。

しかし、利用者の方の中には、小遣い帳の確認や整理整頓、相談ができずに悩みを抱えてしまうなど支援が必要な方もいらっしゃる。そこで、日々ひだまりの世話人4名が、利用者の方の話を聴いたり食事の準備をしたりなどさまざまな支援をしています。

インタビュー

世話人の一人の櫻川さんにインタビューしました。



櫻川世話人

世話人歴:1年4か月

Q. 世話人になるきっかけはなんですか？

A. 友人に世話人の話があったのですが、友人が私の方が向いていると紹介したことがきっかけです。家族が福祉に携わっていたこともあり抵抗はありませんでしたが、最初は自信がなくて、仕事ができるか不安でした。しかし、まずは体験をということで頑張ってみようという話を受けました。

面接の中で『利用者の方は、外で嫌な思いや辛い思いもしているの、家族の一員

として暖かく、家庭的なグループホームにしたい』というセンター長の思いを聞いてとても感動しました。

Q. 仕事で喜びを感じることはなんですか？

A. 利用者の方の成長が見られたときです。仕事始めは、利用者の方も心を開いてくれず話もしてくれなかったのが、今では大きな声であいさつをしてくれたり、日ごろの話をたくさんしてくれたりするのがとてもうれしいです。ある利用者の方は、今年4月から新しい利用者の方が入居されたことで、お姉さんとしていろいろと気にかけている姿を見ると、成長したなとうれしくなります。

Q. 目指す世話人像は？

A. 世話人は、利用者の方との会話や表情などをキャッチして話を聴き、思いを職員へ伝える役割を

担っていると考えています。つまり『このころのキャッチボール』が大切で、利用者の方と職員とをつなぐ架け橋のような存在になつていきたいです。



世話人室で利用者の方の話を聴く様子

Q. 利用者の方との信頼関係を作るために心がけていることはありますか？

A. すべての人に言えることですが、その人をまず知ろうとしています。注意するときも、怒るのではなく、なぜ注意されたのか気づいてほしいとの思いから、わかりやすく身近なものにたとえたりして話をするように心がけています。

世話人研修

世話人はふだん、各グループホームでの一人勤務が多く、支援の中でわからないこともたくさんあり、かわり方について悩むことも多いようです。

このために年4回世話人研修を行い、各世話人のレベルアップや情報共有、交流の場としています。

研修内容としては、感染症対策や虐待防止などについて考えたり話し合ったりして、真剣に取り組んでいます。



虐待防止について考える様子

世話人は、利用者の方の表情や行動から、体調の変化や悩んでいることがないかなど、気を配りながら支援をしています。利用者の方にとって、世話人は日常の悩みや相談を受け止めてくれるとても身近な家族のような存在です。

さらに世話人は利用者の方の思いを職員に伝える役割も担っています。小さな変化に気づくということは、日々の業務の中で、利用者の方を知ろうとかかわってくださっているからだと思っています。

利用者の方・世話人・職員が互いに「このころのキャッチボール」でつながり、利用者の方に満足していただけるよう今後も世話人の方と協力して支援してまいります。

生活支援員 副主任

柳生 郁子

わたし、歩けてるぞ～ いつまでも可能性をもって！

足の運動、
イチニ〜イチニ〜！



みなさんは、福祉サービスの一つとして提供される機能訓練（リハビリ）をご存じでしょうか？
その目的は利用者の方の残された力を大事にし、その方らしい生活が送れるようになることです。
歩行や着替え、腕や足を動かすなどの動きをスムーズに行うことができますよう、リハビリ専門員の指導のもと機械を使い、訓練を行っています。

歩けなくて…

平成26年1月8日、黒川ハナコさん（96歳）は、ショートステイサービスセンターを利用中、居室で転倒され、左大腿部を骨折し手術を行いました。骨折で入院するまでは、膝の痛みを訴えながらも杖を使用していました。歩くことが好きでフロア内を歩き、外の景色や掲示物を眺めたり、他のフロアの利用者の方に会いに行ったりしていました。

退院時に医師から『以前のように立ち上がることや歩くことは難しい』と診断され、移動には車イスを使用するようになりました。

黒川さんが歩けなくなり、ご家族は自宅での介護に不安が生じてきたこともあり、ショートステイサービスセンターを長期に利用するようになりました。

はじめの一步

平成26年8月に、かねてから希望されていた施設への入所となり、同9月よりリハビリ専門員と相談しながら機能訓練（リハビリ）を開始しました。

はじめは立つ力がなく、膝の痛みもあり、トイレでは職員がお尻を支えながら5秒ほど立つことができたという状態でした。ですが、機能訓練を続けて行うことで膝



フロアで職員と一緒に！

の痛みを訴えることは少なくなり、立つ力もつき、車イスからの立ち上がりも自分で少しずつ行えるようになってきました。

平成27年1月より膝や足首の曲げ伸ばし、足踏み、立ち上がりの訓練、立位保持20秒を5回から回数を増やしていききました。このような訓練を続けることで足の力がついて、立っている時間も長くなりました。1か月後には平行棒で歩く訓練もできるようになりました。



はじめは怖さも見られ、足の痛みの訴えもあり、平行棒の訓練は片道のみでしたが、徐々に歩行も安定し、平行棒の往復もできるようになってきました。

できることが増えるにつれ、笑顔が増え『歩いてるぞ』『楽しいわ』『どこまで行ったら良いの』という言葉も聞けるようになりました。

新たなステップ

最近では平行棒での歩行も職員が後ろで見守りを行うだけで、一人で歩けるようになり、歩行器での歩行訓練も開始しています。

車イスで自らトイレにいき、職員が見守りを行うだけ

自分で立ち、座ることができるようになりました。

以前よりも行動範囲が広がることで、黒川さんからも「前みたいに歩いてどこでも行きたい」と言われ、ますます意欲的になっています。

これはこ～で～、
う～ん…



頭の体操、形が合うかどうか…

4年ほど前からはじめて機能訓練（リハビリ）の取り組みは、最初は理学療法士に週1回来ていただき、看護職員が指導を受けることからはじめました。リハビリ機器が何もなく、生活の中での訓練メニューを計画し、少しずつ実践していくところからのスタートでした。

2年前からは平行棒など、今年度からはニューステップ（全身運動機器）やトレッドミル（ウォーキングマシン）などリハビリ機器を使用した訓練も行っています。

何歳になってもできることは自分でしたい、少しでもできることを増やしたい、という思いが機能訓練（リハビリ）につながります。

そのため、少しでも本人の思いに添えるように、その方らしくわがままに生活できるようにお手伝いし、利用者の方の笑顔を増やしていきたいと思っています。

看護主任 久保田 美鈴

～ 共生への道 一歩ずつ～

地域へお出かけ



毎年、地域の祭りにくじ引き出店しています。
「やった!欲しい物だ!!」子どもと一緒に職員も喜びをわかち合っています。



利用者の方、地域の方みんなと一緒に夏花の苗を植えました。「キレイ!」と感じていただけたらうれしいです。

オープンな施設



足羽東こども園のふれあいホールを地域の未就園児親子の遊び場、交流の場として開放。子育て相談も行っており、育児への不安が和らぐようです。

また、園独自の取り組みとして、卒園児など学童の保育も行っています。

いろいろなサービス



足羽利生苑では、地域の方をお招きして器具を使ったりハビリやマッサージを通して交流をもっていただく機会を提供しています。

その他、愛全園では毎月第3土曜日、足羽利生苑では年2回の法話を行っています。

また、愛全園では、地域喫茶(あいあい)、11月の文化祭では施設利用者の方および地域の方々の作品展示・発表を行っています。



思いを活動に

安全・安心



地域との防災協定、福祉避難所としての機能を持ち、もしもの災害に対する備えをしています。



近くの横断歩道で職員が立ち、見守りを行っています。笑顔であいさつすることで清々しい朝になります。

クリーンアップ



月に1回、地域交流事業として日中活動場所周辺の清掃活動を行っています。終わった後にきれいになった道を見るとやっぱり清々しい♪



ドラゴンリバー交流会が実施する足羽川清掃活動に参加し、周辺地区の方々とともに利用者の方と職員が汗を流しました。

地域を活性化



福井市木田地区を会場に、足羽川ふれあいマラソンを開催。ボランティアとランナー皆さんでつくりあげるアットホームな大会運営を行っています。

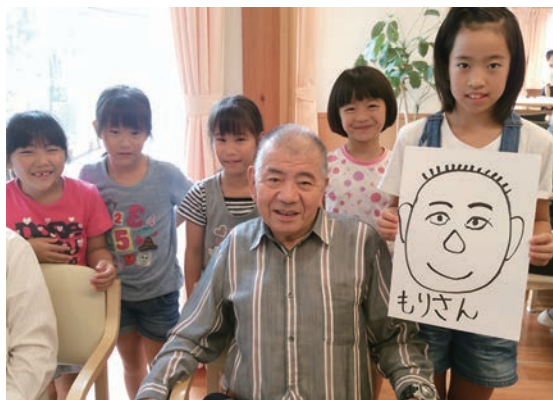


子どもたちの元気な笑顔満載!! 〜啓明児童クラブ〜

平成27年4月、福井市美山啓明・

羽生地区の子どもたちの健全な育成と保護者の就労と子育ての両立を支援する「啓明児童クラブ」が開館いたしました。

現在、羽生小学校、美山啓明小学校の1〜5年生の計25名の児童が、放課後、遊びや生活を通して仲良く過ごしています。学校は違ってても、そこは美山の子どもたち、年上の子が年下を手助け、宿題をしたり遊んだり、おやつを食べたり。



似てるかな？(お年寄りとの交流にて)



思い思いのパン作り

特に夏休みは朝からの生活。「グループホーム美山」利用者の方との交流や、公民館での昼食作り、映画観賞やパン作りなど、子どもたちにとっても楽しい行事を企画しました。もちろん、夏休みの勉強やプール、ホールでのビーチバレーなど体を思いっきり動かし元気にやっている笑顔、日々見守っています。

美山地区の子どもたちが元気にスクスクと育つよう、そして地域の皆様から安心され信頼される「第二の家庭」を目指して頑張っていきます。よろしくお願いいたします。

受賞者の皆様

- ★宮川 定幸 様
足羽東子ども園
ボランティア
- ★野路 武夫 様
啓蒙地区公民館
(前)館長
- ★野阪 雪子 様
啓蒙地区ボランティア
代表
- ★斉藤 さよ子 様
愛全園
個人ボランティア
- ★泉 幸枝 様
酒生地区社協会長
- ★宮浦 知恵子 様
酒生地区社協役員
- ★加畑 良宏 様
足羽利生苑
個人ボランティア



平成27年7月3日(金)、足羽福祉会において、地域の方への感謝状授与式がありました。
日頃、書道教室、ボランティア活動、地域と施設の橋渡し役など多大な貢献をしてくださっている方々に当法人として感謝の意を表すために、高村理事長より感謝状が授与されました。
皆様の活動は、当法人への理解、地域への浸透に確実につながっていると感じます。これからも、変わらぬご支援のほどよろしくお願いいたします。

感謝状授与



平成27年度

第7回 足羽福祉会 サービス実践報告会 が開かれます

日時：平成27年 **12月13日(日)** 10:00～17:00

場所：福井商工会議所 国際ホール（福井市西木田2-8-1）

足羽福祉会職員が利用者の方お一人おひとりへのサービス向上に取り組んだ実践内容を、広く社会に公表する機会として、平成21年度より年1回開催。

児童、障害者、介護それぞれの事業での利用者の方の満足を目指して、職員が試行錯誤しながら成長していく過程を発表します。

入場無料！ 関心のある方はどなたでもご来場を！

発表テーマ：（※今後変更になる場合があります）

【児童事業関係】

- 子どもの心の成長と家庭連携（足羽東こども園）
- 思いを尊重し、共に歩む（足羽学園）
- 家庭・保育園・事業所が連携して育てる（あすわ児童発達支援センター）

【障害者事業関係】

- できることを増やしたい～さまざまな作業を通して～（足羽ワークセンター）
- 私の笑顔を届けたい（足羽サポートセンター）
- 安心して通院・検査を受けていただくための事前ケアについて（足羽更生園）
- 高等部卒業後の進路について（あすわ相談支援センター）
- 笑顔でいるために～安心して透析治療を受けるために～（あすわ地域生活支援センター）

【介護事業関係】

- 在宅復帰に向けた自立支援の取り組み（愛全園）
- 在宅での暮らしを継続できるように
～家族と利用者の方の関係を結ぶ～（愛全園デイサービスセンター）
- わがままに自分らしく生きる
～一人ひとりの思いに寄り添った暮らしを支援する～（足羽利生苑）
- 自分たちのもてる力で、いつまでも自宅で生活したい（グループホーム美山）



左：小林事務局長

ネパール大地震
災害援助募金に
ご協力ありがとうございました
ごさいました

平成27年6月、足羽福祉会ではネパール大地震の災害援助を目的とした募金を呼びかけ、各拠点に募金箱を置くなどした結果、全体で84,386円の募金が集まりました。

7月21日、当法人の高村理事長が日本赤十字社福井県支部を訪れ、小林正明事務局長に募金をお渡しいたしました。これからも社会福祉法人としてさまざまな支援を行っていきたいと考えています。

【足羽東こども園】

(寄付・寄贈)

家接忠

(ボランティア・交流・訪問)

宮川定幸 豊島雅恵 上文殊幼稚園

上文殊小学校 上文殊駐在所 上文殊公民館 福井県立図書館 文殊苑

エンゼルランド福井 やまびこ合唱団 福井市防災センター パピルス

館 おもちやハウスこどもと木河原愛 中村百花 平尾美由音 吉田

菜摘 加藤暉 中村友哉

(研修・実習・見学)

山崎茜

【あすわ就労支援センター】

(寄付・寄贈)

マエダセイカ(株)

(ボランティア・交流・訪問)

大島早泰子 松原智子 野路純子

ふくい若者サポートステーション

越前一風 越前美山そば元気の会

桑野美代子 佐藤美代子 山本とよ

子 牧野幸子 林洋子 吉野清子

諏訪八重子 山下敏子 入場恵子

沢崎ソノエ 吉田実智代 白崎綾佳

小林みき 田代千佳 竹内友香 山

内智弘 阪本裕美 高橋映子 小西

裕子 要田育美 福田光信 吉野隆

春

(研修・実習・見学)

福井県立嶺北特別支援学校 福井県

立盲学校 福井県立福井東特別支援

学校 福井大学教育地域科学部附属

特別支援学校 仁愛女子短期大学

福井大学

【足羽学園・足羽更生園】

(寄付・寄贈)

芦田尚義 (有)吉田金属 小川奈穂美

稲葉一恵

(ボランティア・交流・訪問)

湯本拓郎 坪川友優樹 国本大志

安井志織 稲澤美喜 山田郁子 中

村紗弥香 近藤善勝 北村政義 山

崎清治 河村瞳 土岡慶子 荒川八

重子 前田巨史 奥村和子

(研修・実習・見学)

大原スポーツ医療保育福祉専門学校

仁愛女子短期大学

【あすわ地域生活支援センター】

(ボランティア・交流・訪問)

吉野隆春 葛野遼 三ツ山智己 山

下史道 吉田花蓮 白崎綾佳 小林

みき 田代千佳 竹内友香 吉野静

子 諏訪八重子 山下敏子 入場恵

子 越前一風 川瀬真一

【あすわ児童発達支援センター】

(寄付・寄贈)

関村公美 金森澄江 加藤和恵

(ボランティア・交流・訪問)

福井大学よつしやこい 大原スポー

ツ医療保育福祉専門学校 高志高校

JRC部 イシドルジ・パヤルマ

源野京子 松宮美果 大谷奏世 小

林正人

(ボランティア・交流・訪問)

啓蒙保健衛生推進員 啓蒙ボラン

ティア 啓蒙民謡クラブ 大正琴ク

ラブ 福井市赤十字奉仕団 斎藤さ

よ子 花亀会 山岡玲子 中嶋安子

鈴木陽子 熊谷三和子 山下敏子

山下敏子 諏訪八重子 中野節子

杉本信子 東新保ボランティア 丸

山ボランティア 福井ばら会 福井

絵本クラブ 啓蒙リズム体操 明治

安田生命ボランティアグループ

(研修・実習・見学)

福井県医療福祉専門学校 福井県警

察学校 福井商業高等学校 福井農

林高等学校

【足羽利生苑】

(ボランティア・交流・訪問)

福井市赤十字奉仕団 丸山グループ

まいまれーど美容室 宇都宮友美

美容室倶楽部浜田 戸嶋聡美 児玉

美子 本多幸雄 梯洋枝 オカリ

ナポルテ 野坂幸雄 加畑良宏 高

嶋政廣 松宮あさ子 江端茂子 野

田拓矢 浦山祐希 三弦明萌会 橘

里香 大平彩花 柴田ひかり 小島

純 杉森厚美 奥村涼子 マッサー

ジさくら 福井県立看護専門学校

大原スポーツ医療保育福祉専門学校

福井県医療福祉専門学校 仁愛大学

福井県立大学 稲津民謡クラブ

(研修・実習・見学)

仁愛大学 ニチイ学館 福井県警察

学校 (株)グレート 大原スポーツ医

療保育福祉専門学校 福井県医療福

祉専門学校 福井県立大学 日本福

祉大学 福井シルバサービス 福

井県 福井市医師会専門学校 竜神

太鼓 越前一風 竹田信代 野田

富士子 和気範子 免康晴 室田保

【グループホーム美山】

(寄付・寄贈)

宮下英也 高瀬清光 美山町壮年会

下宇坂地区翔友会 羽生小学校 酒

井武

(ボランティア・交流・訪問)

土田俊一 小嵐龍夫 家接忠 家接

加津代 林幸男 大正琴演奏「美山た

んぼ」

(研修・実習・見学)

上宇坂第二老人クラブ

順不同・敬称略

編集後記

● 初の愛道携わりです。皆さん、いろいろな思いを込めてこの一冊を作り上げています。次号は、取組レポート担当。頑張らなければ!! 井上(こ)

● 秋が一番好きな季節です。心地いい天気の中、のんびりと過ごす時間が至福の時です。加藤(就)

● 初めての原稿作成でも大変でしたが、無事に完成することができてよかったです。中村(学)

● 秋ですね。秋といえば、食欲の秋! ということでおいしい物をたくさん食べたいです。山口(更)

● 原稿を作成する際にはとても大変でしたが、無事でできあがりホッとしています。秋は紅葉を見に行くことを楽しみにしています。出口(地)

● 9月に入り、涼しくなってきたなあと、思う今日この頃。もう何か月かで、雪がぁ…。齊藤(児)

● 今回初原稿です。皆さんにご協力していただき作成することができました。充実感でいっぱいです。大森(愛)

● 「愛道」一年生です。ステキな記事を皆さんにお届けしているようにがんばります。黒川(愛)

● 食欲の秋ですね。秋の新作を探るのが今から楽しみです。日野岡(利)

● 秋を感じるのは高い空と虫の声。そんな所で田舎育ちがばれてしまします。川縁(本)

● 秋過ぎて冬が近づくとつれ、いろんな感染症の流行が考えられます。私は今日も帰宅してから、手洗い・うがい・血洗い(？)さらに努めます。安田(本)

社会福祉法人 足羽福祉会

<http://www.asuwafukushikai.jp/>

法人本部

福井県福井市榎野町20-7

TEL(0776)41-3108

啓明児童クラブ

福井県福井市朝谷町1-20

TEL(080)2959-9907

足羽東こども園

福井県福井市東大味町10-1-1

TEL(0776)41-3122

あすわ就労支援センター

福井県福井市榎野町20-5

TEL(0776)41-3795

足羽学園・足羽更生園

福井県福井市宿布町19-46-1

TEL(0776)41-3120

あすわ相談支援センター

福井県福井市成和1丁目1009-2

TEL(0776)88-0001

あすわ地域生活支援センター

福井県福井市榎野町20-5

TEL(0776)41-3795

あすわ児童発達支援センター

福井県福井市大和田1-1607

TEL(0776)53-3330

愛全園

福井県福井市丸山町40-7

TEL(0776)53-5411

足羽利生苑

福井県福井市榎野町20-7

TEL(0776)41-3121

グループホーム美山

福井県福井市美山町6-1

TEL(0776)90-3330